

巻頭言 「革新」

宇野 元

芸術家から教えられることが多くあります。

イタリア・ミラノ出身の指揮者、クラウディオ・アバドは、一世を風靡したカラヤンのあとを継いでベルリン・フィルの監督に就任し、世界的な注目を浴びた人でしたが、評価の確立した曲目を振る一方で、商業的成功とはあまり関係ない、現代曲の演奏に積極的に取り組んだことは記憶に値するでしょう。有名なオーケストラがとりあげることで、埋もれていた作品に大きなチャンスが与えられます。この指揮者の音楽に対する純粋な愛を感じます。来日の際にアバドが語った言葉を読みました。「プッチーニが嫌いなのではない。ただ、私は革新にひかれる。」晩年の仕事部屋の写真には、質素な棚があって、帆船の模型が飾られています。豊かな音楽的伝統を受け継ぎつつ、新しいものに心をひらいていた人らしいと思います。

洗礼の礼典は、私たちの人生に革新をもたらしてくれます。水による洗い——この形が、きわめてシンプルに、かつ明確に洗礼の意味を表しています。形式が、まさに内容を証しています。すなわち、私たちはイエス・キリストにある力づよい劇的な転換にあずかる。罪のゆるしと、死から命への転換にあずかる。

あらたにされる。このことをおぼえるのに、ドイツ語のエアノイエルング *Erneuerung* という言葉が役に立つかもしれません。この言葉は、イエス・キリストにある革新の二つの側面を示してくれるでしょう。ひとつは、新しいものに取り替えること。主イエスは、私たちがあずかる新しさを、古い衣に代えて「新しい衣」に着替えることにたとえておられます。

エアノイエルングにはもう一つ、大切な意味が含まれています。新しさを保つこと。新しさを保つには、新しさに立って生きることが大切です。神の力に信頼し、日ごとに新しく出発することが。そしてそのために、私たちは互いに手を携え、助け合うよう招かれています。キリストにある共同体の一人として歩むように。キリストにある無尽蔵の豊かさを分かちあい、勇気と共に心の確かさを得て進むように。キリストの教会は、たえず前に向かって歩みます。